

調査速報

国内新車販売統計（2018年1月）

1月新車販売の季調値は17年実績を下回る厳しい出足。内外需共に減速リスクもあり減産圧力が強まろう

主任研究員  
深尾 三四郎  
045-225-2375  
fukao@yokohama-ri.co.jp

要約

- 国内販売台数（季調値）は3か月ぶりの減少。軽自動車販売は好調で、「軽高登低」が鮮明。
- 新車乗用車輸出は増加。米国向けを中心に海外市場の新車需要に減速感あり、先行きは楽観できず。
- 乗用車在庫に過剰感あり。内外需の減速リスクがあり、生産への下方圧力が強まろう。

1. 18年1月国内新車販売台数は季節調整済年率換算値で506万台と17年実績523万台を下回る

2月1日発表の2018年1月の国内新車販売台数（登録車+軽自動車、貨物車含む）は前年同月比0.5%減と4か月連続前年割れし、季調済年率換算値(X-12-ARIMAにて当社試算、以下SAAR)でみた1月の販売台数は前月比3.9%減の506万台と3か月ぶりに減少した(図表1)。1月のSAARは17暦年実績523万台を下回っており、新年の国内新車販売は厳しいスタートとなった。

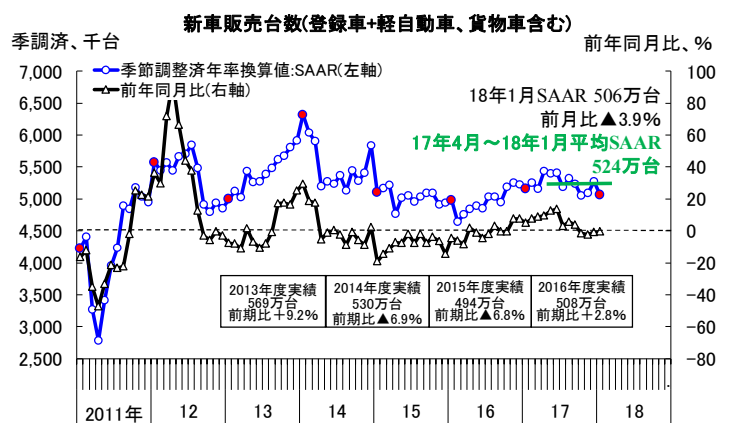
18年前半の新車市場の先行きは楽観視できない。買い替え需要の発生が今後販売を盛り上げると期待することが難しいからだ。車検更新車両台数のSAARは12月に増加したが、基調としては一進一退で停滞している(図表2)。過去のSAAR実績から試算した車検の理論値は年度末に向けて減速が続く見通しである(図表3)。

新車販売台数の内訳をみると、1月の登録乗用車の販売台数(SAAR)は前月比11.4%減の271万台と失速した(図表4)。一方、軽乗用車のSAARは同8.3%増の150万台と伸長した(図表5)。軽乗用車と軽商用車を合わせた軽自動車販売台数のSAARは同5.7%増の192万台と190万台レベルを上回り堅調である(図表6)。貨物車(普通+小型トラック)販売台数の1月のSAARは同0.7%減の42.2万台と減少したが(図表7)、3か月後方移動平均値でみたトレンドは増加基調が続いている。17年9月の排ガス規制強化で、その後数か月は8月の駆け込み需要の反動もあり、全需は落ち込んでいたが、その反動減は解消しつつある。

12月の乗用車輸出台数(軽乗用車と中古車を除く)は前年同月比3.6%増と2か月連続の増加となり、SAARは前月比9.6%増の462万台と大幅に増加した。もっとも、輸出先主要市場における新車需要の見通しは楽観できない状況であり、12月の結果をもって輸出環境は好調であると判断することは尚早と考える。今後、新車輸出に対しては下方圧力がかかると予想する。

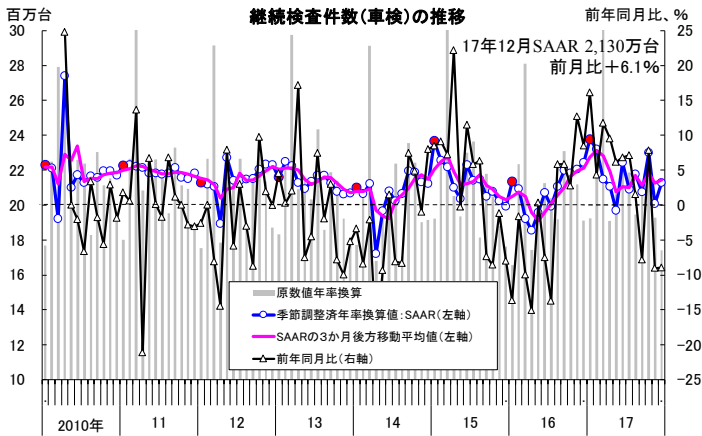
鉱工業指数を見ると、乗用車生産は「在庫積み上がり局面」が続いており、在庫に過剰感がある。国内販売に加え、米国を中心とした海外需要の減速懸念も払しょくできないことから、乗用車の減産リスクには引き続き要注意である。

図表1 1月国内新車販売(SAAR)は減少



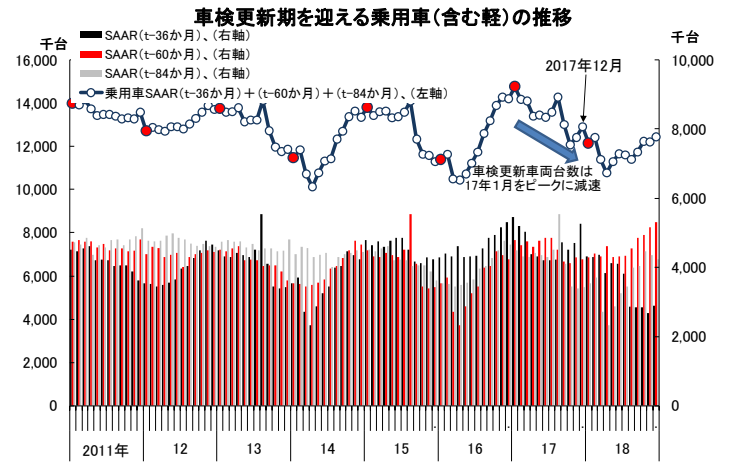
注1: 赤塗リマーカーは各年の1月実績値。  
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
出所: 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会より作成

図表2 車検更新車両台数（SAAR）は一進一退



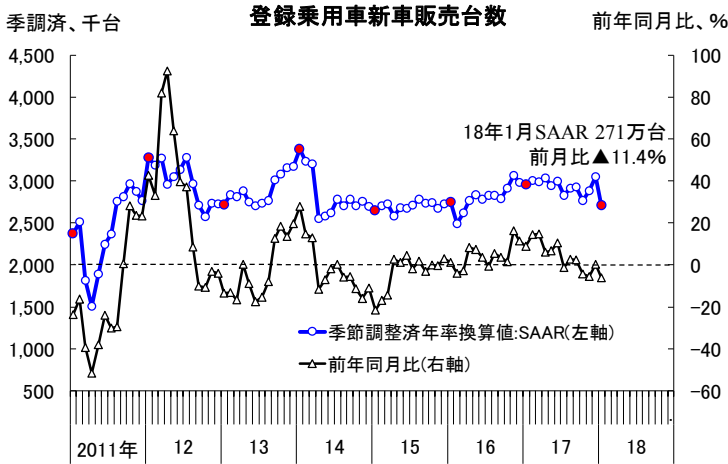
注1: 赤いマーカーは各年の1月実績値。  
 注2: SAARはX-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が算出。  
 出所: 国土交通省のデータを基に作成

図表3 車検更新車両は年度末に向け減速が続こう



注1: 赤いマーカーは各年の1月実績値。  
 注2: SAARはX-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が算出。  
 出所: 日本自動車販売協会連合会のデータを基に作成

図表4 登録乗用車販売（SAAR）が失速



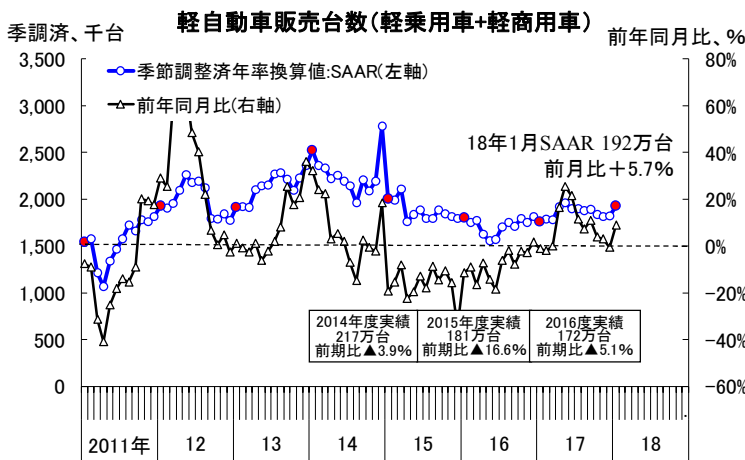
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
 出所: 日本自動車販売協会連合会より作成

図表5 軽乗用車販売（SAAR）は大幅増



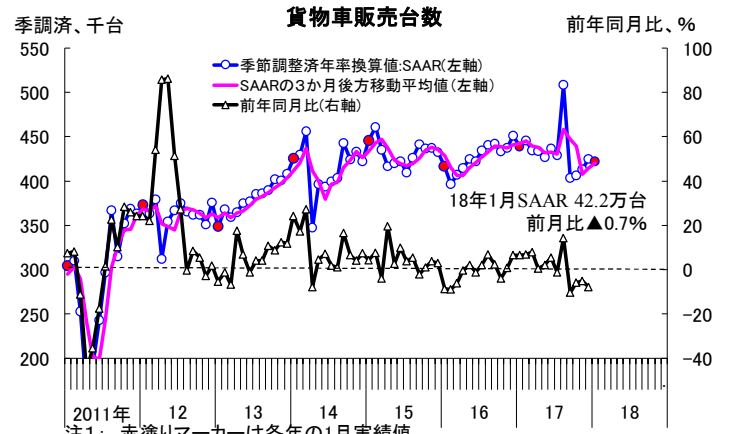
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
 出所: 全国軽自動車協会連合会より作成

図表6 軽自動車販売（SAAR）は高水準



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
 出所: 全国軽自動車協会連合会より作成

図表7 貨物車販売は排ガス規制強化に伴う  
 駆込み需要発生への反動減が解消しつつある



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
 出所: 日本自動車販売協会連合会より作成

## 2. 12月新車乗用車輸出台数（SAAR）は大幅増。欧米市場向け輸出減速リスクには引き続き要警戒

1月30日に公表された12月の乗用車輸出台数（軽乗用車と中古車を除く）は前年同月比3.6%増と2か月連続の増加となり、SAARは前月比9.6%増の462万台と大幅に増加した（図表8）。もっとも、輸出先主要市場における新車需要の見通しは楽観できない状況であり、12月の結果をもって輸出環境は好調であると判断することは尚早と考える。今後、新車輸出に対しては下方圧力がかかると予想する。

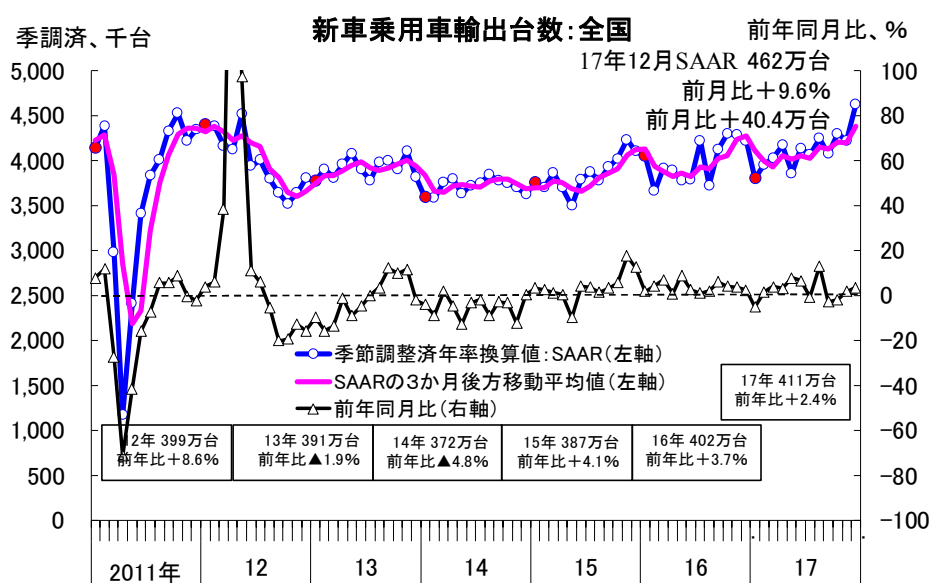
新車乗用車輸出を主要仕向地別でみると（図表9）、中東と豪州向けの輸出急伸が全体の増加を牽引した。ただ、中東では1月1日よりサウジアラビアとアラブ首長国連邦で付加価値税（VAT）が導入された。今後、18年中に他の湾岸協力会議（GCC）諸国もVATを導入する予定であるため、中東での需要減少リスクは同地域向け輸出に対しては逆風となろう。12月の輸出がこれまでのトレンドに反して異常に増えたことの背景に、VAT導入前に駆け込み需要が発生した可能性も考えられる。

日本にとって最大の輸出先である米国の新車販売台数（SAAR：当社試算）は12月に前月比4.3%減少の1,747万台と失速した。10、11月はハリケーン後の買い替え特需の発生が続いていることが背後にあったが、いよいよその影響は解消しつつある（図表10）。依然としてメーカー各社による販売奨励金が高水準で推移していることから、足元の需要は脆弱性が高く、米国新車販売にはなお下振れ余地がある。従って、同国向けの輸出が今後切り上がり、輸出の大きな押し上げ要因になると期待するのは難しい。

米国に次ぐ主要仕向け地である欧州でも需要に頭打ち感がある。12月の販売台数（SAAR）は前月比0.8%減と減少した（図表11）。SAARは一進一退の状況で、欧州での新車需要が同地域向けの輸出を引っ張っていくと期待するのは難しい。

中国の12月の乗用車小売台数は前年同月比1.0%増と低調だが、流通在庫は減少し健全な水準を保っている（図表12）。乗用車販売台数（生産に近い工場出荷ベース）では、12月のSAARは前月比3.0%減と3か月連続で減少した。受注に見合った生産を行うことで需給バランスを上手くコントロールすることができていると考えるが、需要に強さがみられないことから、中国向けの輸出に関しても下方圧力が強まるリスクには警戒したい（図表13）。

図表8 12月乗用車輸出（SAAR）は増加



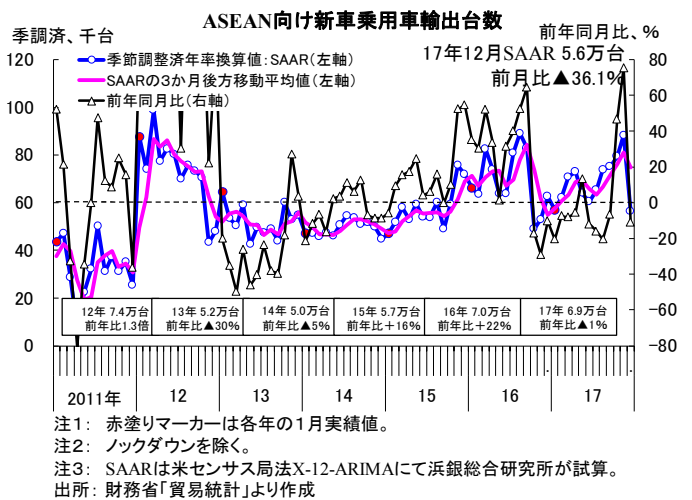
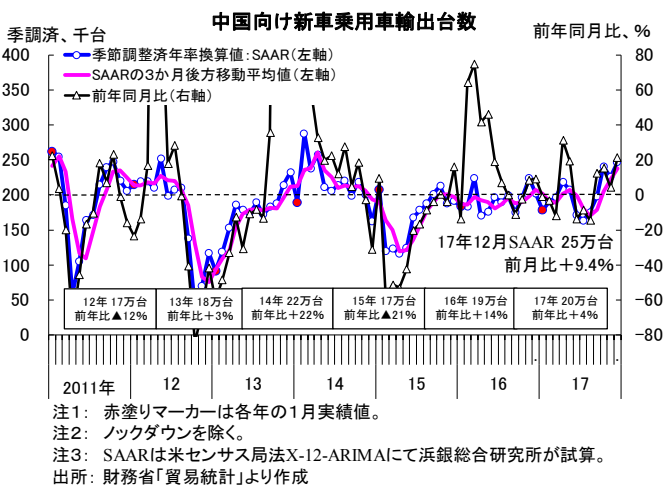
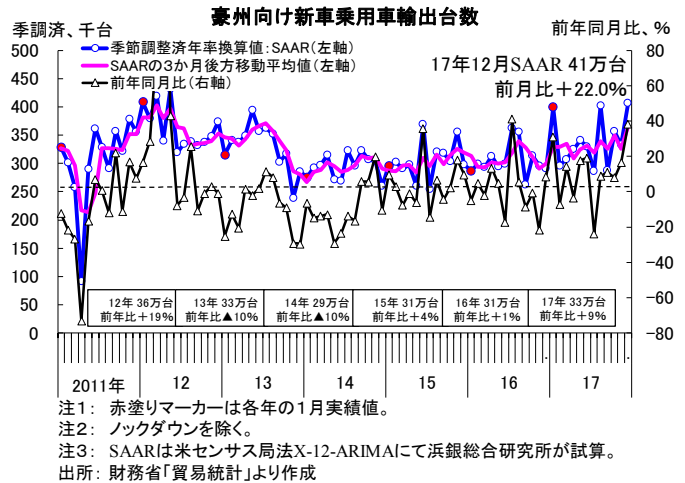
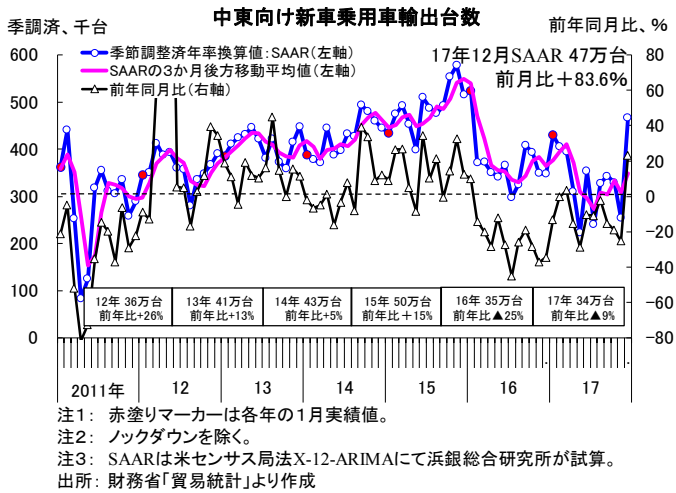
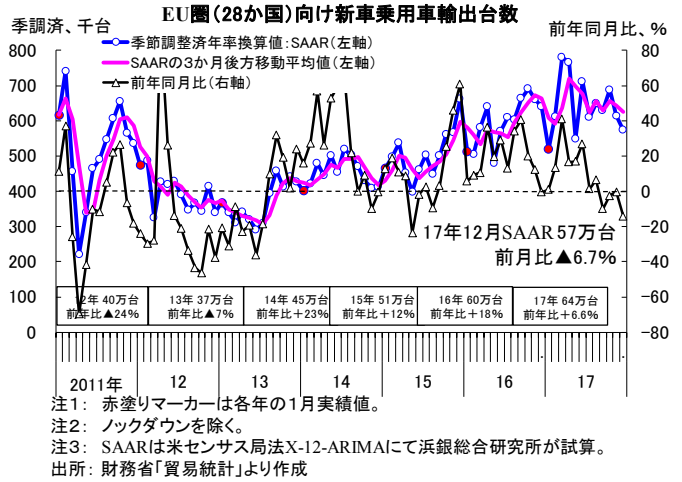
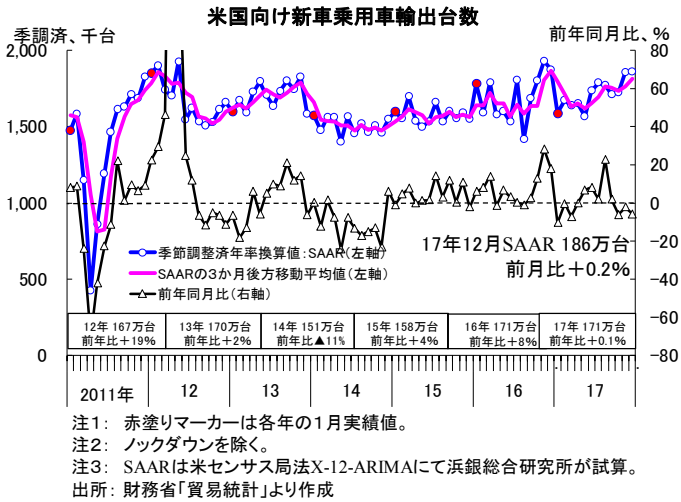
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2：ノックダウンを除く。

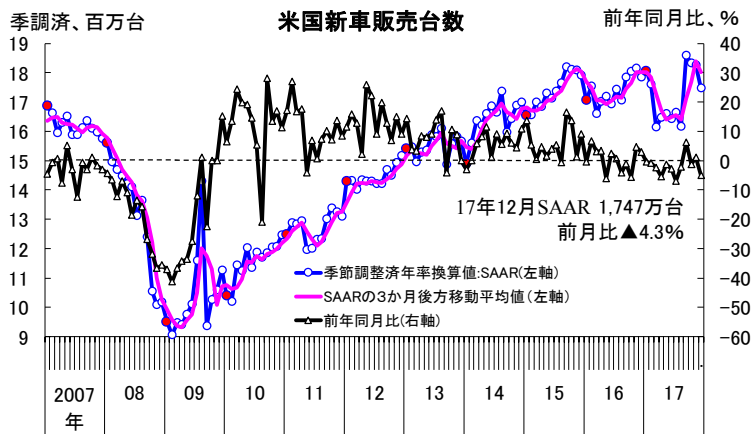
注3：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所：財務省「貿易統計」より作成

図表9 12月輸出台数(SAAR)は中東と豪州向け輸出の急伸が牽引

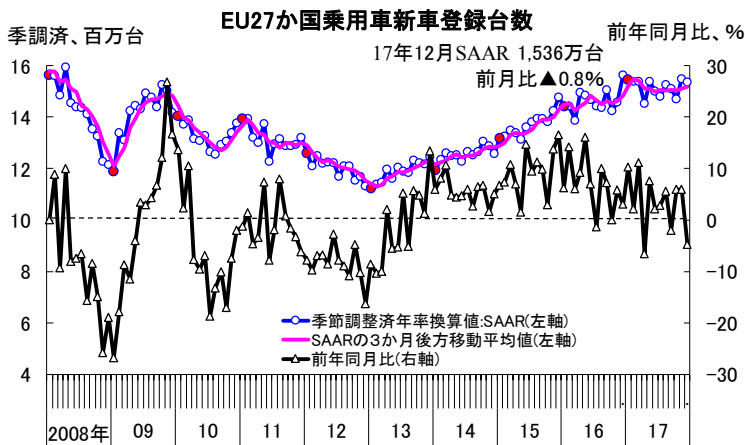


図表 10 12月米国新車販売は失速



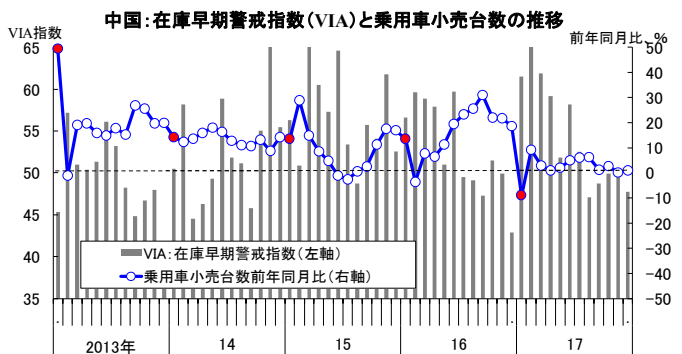
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
注2: SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
出所: Autodata及びBloombergのデータより作成

図表 11 欧州新車販売は頭打ちの状況



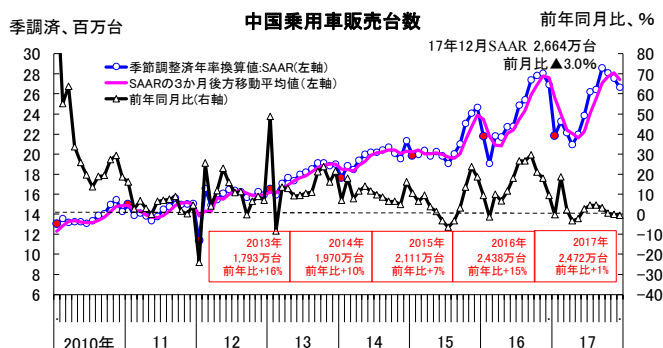
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
注2: SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
出所: 欧州自動車工業会(ACEA)のデータより作成

図表 12 中国乗用車小売台数は低調だが、流通在庫の水準は依然健全



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
注2: 乗用車小売台数は微型バン(軽自動車/バン)を除く。  
注3: VIAは50を下回る場合がディーラーでの在庫水準が適正、50を上回る場合が在庫過多。  
出所: 中国汽流通協会(CADA)、全国乗用車市場信息联席会(CPCA)データより浜銀総合研究所作成

図表 13 乗用車販売(出荷) SAARは3か月連続の減少



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
注2: 工場出荷ベース。  
注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
出所: 中国汽工業協会(CAAM)のデータより作成

### 3. 乗用車生産は「在庫積み上がり局面」が続く。引き続き、生産への下方圧力は強い状況

鉱工業指数（速報値）を見ると、12月の乗用車生産は大きく増加した一方で、在庫は減少した。在庫循環図上では<sup>(注)</sup>、乗用車生産は「在庫積み上がり局面」が続いている。在庫に過剰感があり、生産への下方圧力が強い状況が続いている（図表14）。米国を中心に海外での自動車需要の減速懸念が払しょくできないことから、乗用車の減産リスクには引き続き要注意である。

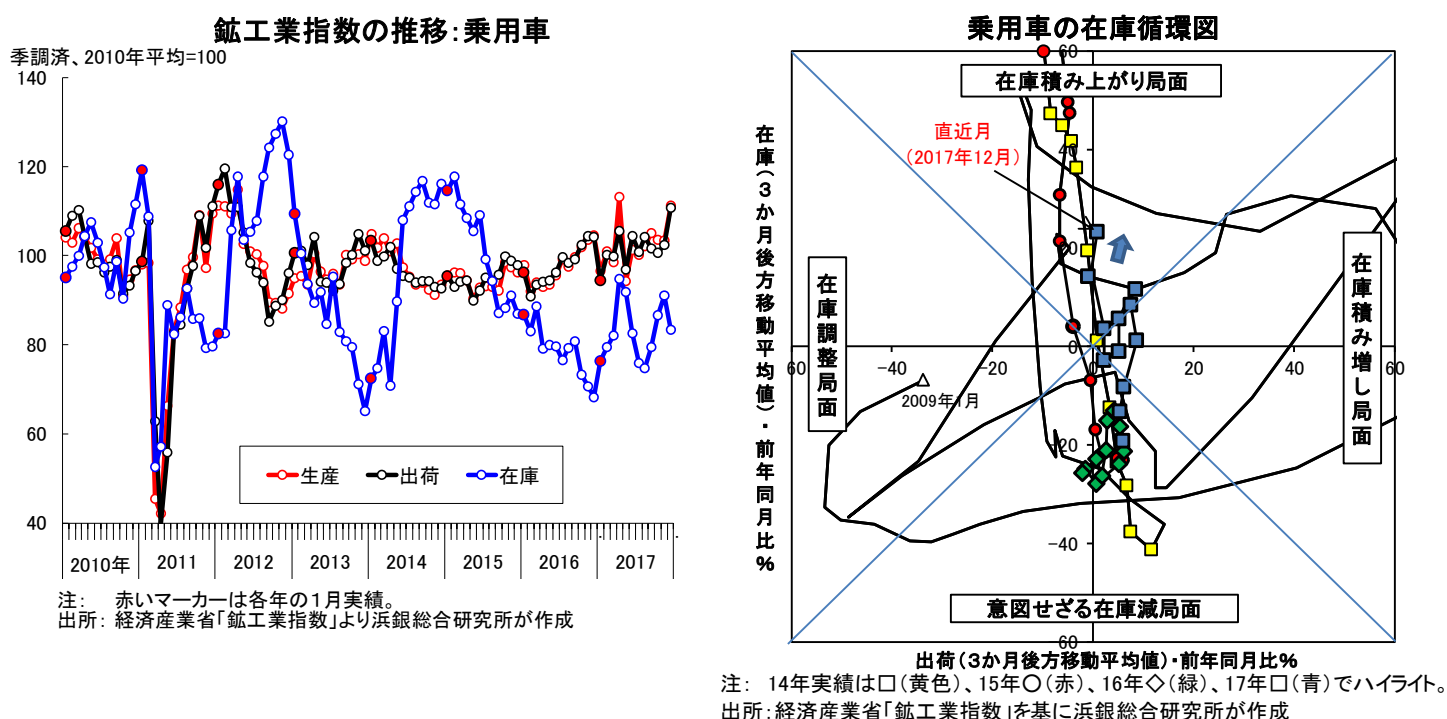
図表15～17では鉱工業指数から、普通、小型、軽乗用車別の各指数（生産、出荷、在庫）の推移と在庫循環図を示している。12月の普通乗用車の在庫は減少したが、生産活動は「在庫積み上がり局面」に止まっている。在庫過剰感がぬぐえず、減産リスクが強まっている。

12月の小型乗用車の在庫も減少した。生産活動は「意図せざる在庫減局面」が続いており、小型乗用車の在庫は健全な水準に収まっている。

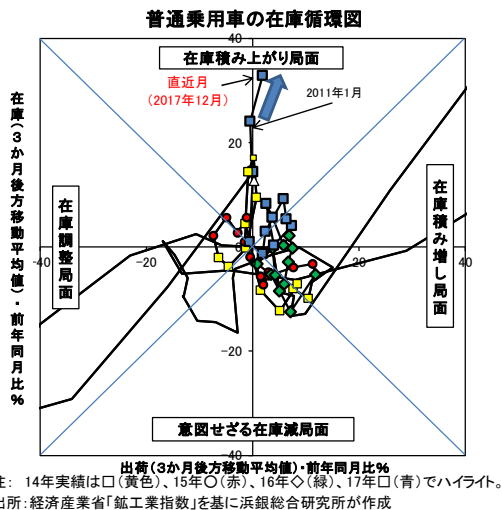
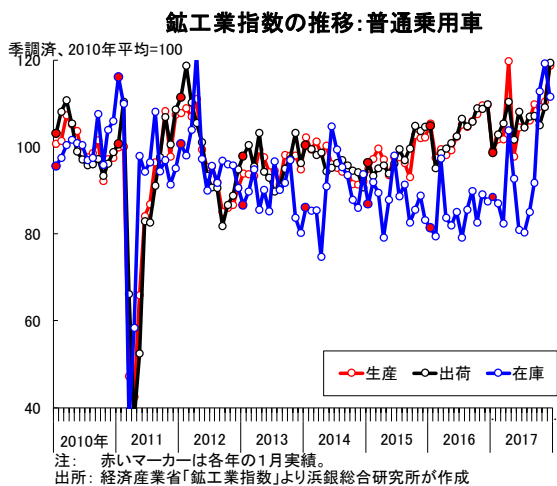
軽乗用車の在庫は4か月連続で増加し、軽乗用車の生産は「在庫積み上がり局面」が続いている。在庫に過剰感がある。足元の軽自動車需要の減速が背景にあるが、目先、生産調整するリスクが高まっていることには要警戒である。

（注）新モデルが発売されるタイミングで乗用車の出荷と在庫は大きく振れるため、各月の出荷・在庫（原数値）を3か月後方移動平均で均してから前年同月比と比較し、それぞれ変化率をX軸（出荷）とY軸（在庫）でプロットしている。

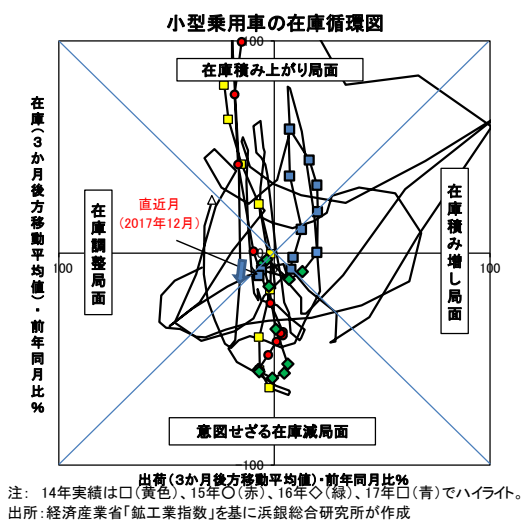
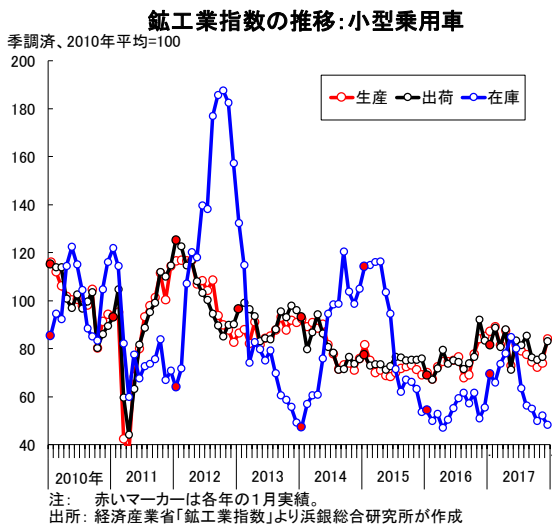
図表14 乗用車生産は「在庫積み上がり局面」が続く



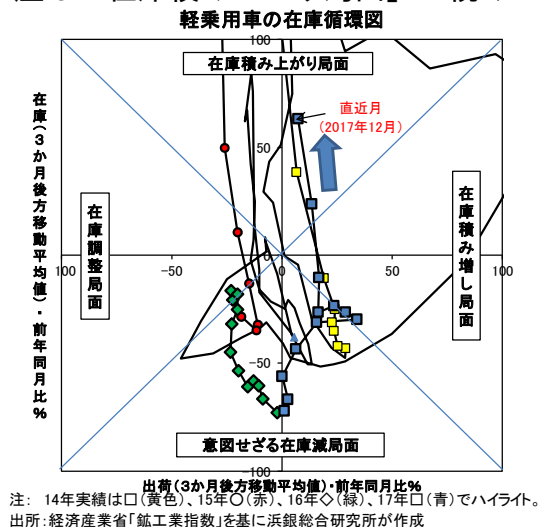
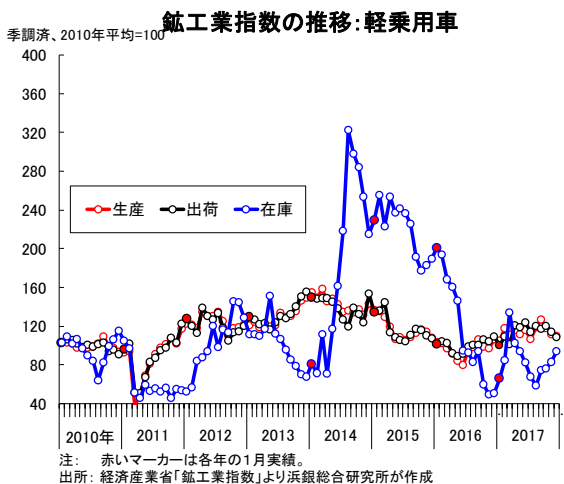
図表 15 普通乗用車の在庫は減少したが高水準



図表 16 小型乗用車は「意図せざる在庫減局面」が続く



図表 17 軽乗用車の在庫は4か月連続で増加。生産は「在庫積み上がり局面」が続く



本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。